

# 環境まづくり 会報

編集・発行/入間市環境まちづくり会議

## 行動の環わを広げよう!!



(ご家庭用現寸)

会員証ができました。  
意識啓発のためのステッカーとしても活用してください。  
ご家庭用の小さな物と、お店やお車のガラスに貼っていただく直径約18cmの2種類あります。

### 委員会だより

#### 啓発 委員会

会報Vol.1で皆さんのお手元に届いた封筒、いかがでしたか。私達啓発委員会が中心となり、会報発行に間に合うよう作成しました。出来るまでに委員会の中でも「封筒が立派過ぎるのではどうか」「環境を思えばゴミになるのでは」「印刷のインクも問題があるよ」「でも目にとまる素敵なものを作りたいうね」など、様々な視点での意見が生まれ、環境を話す時、一方からの見方では解決しないのだと、あらためて思ったりしました。

#### 環境行動 委員会

さて、前回お知らせした会員証のステッカーですが、1月22日に委員会メンバーと、デザイナーの瀬野氏でスローガンやデザインのイメージを出し合い、いくつかの候補の中から、2月の入間市環境まちづくり会議の運営委員会で決定しました。このステッカーを会員皆さんの玄関先やお店のガラスなどに貼っていただき、スローガンにもあるように《行動の環》を広げていきたいと思っています。

す。「まちづくり会議」の会員・未会員にかかわらず、「実行している」「努力している」との項が多く、受講者の皆さんの意識の高さがわかりました。次号で最終結果をご報告いたします。環境ウォークを秋に計画しています。

「環境保全の必要性」を体感していただくよう計画しています。会員の皆さんにはあらためてご連絡しますのでご参加いただけますようお願いいたします。

#### 環境報告書で

#### 環境の現況を知ろう!!

入間市では、「入間市環境基本計画」に基づいた、市内の環境の現況や施策の取り組み状況などをまとめた、環境報告書を作成しました。

この報告書は、市役所環境課、支所、公民館、図書館などに置いてありますのでご覧いただき、ご意見をお寄せ下さい。

問い合わせ 市役所環境課

#### ごみ減量のために 簡易包装などに取り 組む店舗を募集

市と商工会が連携して、ごみ減量のため、簡易包装に取り組むお店を募集しています。参加店には、簡易包装推進のポスターが貼られます。

申し込み・問い合わせ

市商工会

九六四一―二二二  
リサイクルプラザ  
九三三四―五三二四

#### 会報題字は

#### 遊筆家 福田博子(星漣)さん

遊筆と呼ぶ「墨」と「彩」で創る世界を開拓した書家。「彩と墨による遊筆展」を日本各地で開催している。'93年には北京、'94年にはパリで個展を開いている。福田さんの手法は、自分で漉いた和紙に顔彩や絵具で色をつけたりして文字を書く。そこには筆墨と彩色が一体となった一つの世界を創り出している。店舗空間の壁画や広告を手がけていて、最近では、狭山市にある店「乱」や入間市の料亭「魚いち」がある。



# 環境市民講座の概要

「循環型社会の形成」を基本テーマにした環境市民講座（一月十九日から三月九日までの四回開催）が終了しました。各講座の概要をお知らせします。

## 第一回

### 「環境まちづくりの展望」

「持続可能な社会」とはどのようなものか？ そのイメージづけとまちづくりは、市民は何をすればよいのかを、環境行政のコンサルティングを手がけている森賢三氏が「環境まちづくりの展望」と題して講演した。

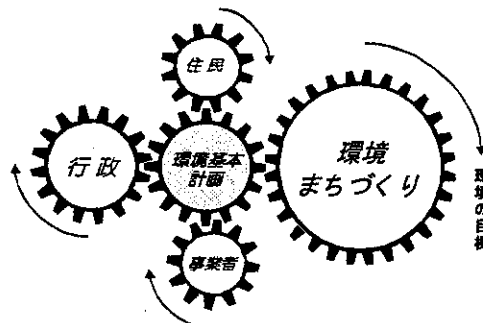
森氏は、人間と自然との「共生」「人間社会の活動の「循環」、この「共生」と「循環」を支える仕組である「参加」の三つの最適な答えが見いだされた社会を「持続可能な社会」といい、そのまちづくりを実現し、持続させるにはどうすればよいのかそれには、そのイメージを市民が共有し、実践、具体化していく取り組みが必要で、そのためには、市民へ環境問題への「関心」を持たせ、「理解」させ、「行動」に移させ、市民参加で環境のまちづくりを実現させれば、「持続可能な社会」を構築されたと解説した。

講演後、参加者から多くの質問があった。質問と答えを掲載する。

問があった。質問と答えを掲載する。

◎意識のない人をどのように意識づけ（参加）させるのか？

◎A 広くというのは難しい。意欲のある人が参加し先ず行動していく。だが、不特定多数の市民にもたえず呼びかける必要がある。



環境まちづくりのイメージ

## 第二回

### 「緑から見たまちづくり」

「管理できなくなった丘陵地

（里山）の緑をどう守っていくのか」。第二回目の講座は、「緑から見たまちづくり」と題して井上康平氏（株）緑生研究所所長が講演した。

井上氏は、緑の持っている効用や燃料革命により、雑木林がクヌギやコナラからスギ、ヒノキへと植生が変わった歴史の背景と、減少しつつある緑を守るための方法を述べた。

緑を守り、それを軸としたまちづくりの条件として、生物の生息状況を入れた緑のマップづくりなどをし、市民に情報を開示し、共有することによって、緑を地域の環境林とする必要性を指摘した。

また、緑の保全を実現するには、固定資産税の減免での市民の森方式や、「道路づくりより環境は公共だ」という考え方で環境税の導入など、法制度化の検討を示唆した。

◎緑の効用を知らせるには  
◎A 言葉より、緑の中に入って体験させ、緑はいいなど実感させるのが良いのでは。

## 第三回

### 「水から見たまちづくり」

「雨量は多いが、それを利用するのは難しい日本。どう水資源を利用し保全していくか。第三回目の講座は、「水資源と生活環境」と題し、田尻要氏（国立群馬工業高等専門学校助教授）

が講演した。

「雨量が多いのだが、水資源として利用する一人当りの水量が少ない」という日本では、地下水をもっと利用するまちづくりを推進することが必要だとし、それには、この地下水は、「どこから来てどのくらいの量でどの様な水がどこを流れてどこに流れて流れているか」を知り、地下水の利用方法を市民参加のワークショップで議論し、実現性やコミュニティの醸成を図りながら親水空間をつくるなど「水を忘れない環境のまちづくりを目指したい」と田尻氏が手がけた前橋市の事例を示しながら講演した。

◎多くの都市づくりに関して、川や道路、駐車場などで、水が地下に浸透しない。どう浸透させるか。

◎A 溜め池やインターロックキングなど、新しい発想で。  
◎B 湧水の憩いの場づくりをどのようにするか。

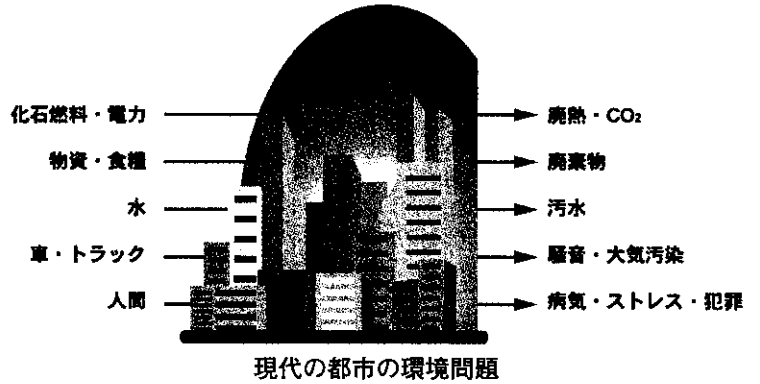
◎A 地域によってその方法は違うが、意識の高い人を集め、ワークショップをし、運動を広めていく。

## 第四回

### 「学び行動する環境市民」

環境市民講座の最終回である第四回目は、「学び行動する環境市民」と題し、小澤祥司氏（アースキッズ代表）が講演した。

持続可能なまちづくりのため市民がなすべきことは何か？生態系の恵みにより成り立っている私たちの生活が犯されつつある現在、持続可能な社会づくりには「人間の生存を支える自然の生態系を理解し、維持していくことが大切である」と述べ、持続可能な社会の条件として、①汚染のない環境、②健全な生態系 ③持続可能な生産手段、の三つの要素を上げた。また、それを支える「資源」「環境」「生態系」を今私たちは、先取りし取り崩しているが、私たちは、そのような社会を改革し、未来の人たちに良い環境を残す努力をしていかなければならないと解説した。



# 会員の世

## 環境基本計画を知り 参加・協力をしよう

入間市に住んで27年になりました。入間市の市民憲章が定められた年です。その市民憲章の第一項に、『自然を愛し、環境のよいまちをつくりましょう。』とあります。市民憲章に魅かれたわけではありませんが、自然が多く残っている入間台地の建売住宅を手に入れ、練馬から移り住みました。職場は都内の青山でしたので通勤は約2時間、

正に痛動でしたが、住む環境としては理想に近い感じで当時は満足でした。  
今考えますと入間台地は加治丘陵を切り崩してつくられたもの、自然を大きく壊して出来た団地で、環境問題を論ずる事となると忸怩たる思いがあります。その当時は公害が殆ど無く、緑の里山が直ぐわきにあつて、出勤の際も歩いて仏子駅に出ると、春から初夏にかけては何万色という緑と鶯の聲に送られ、遅く帰ると緑色した狸の目に迎えられる、という自然がいつぱいの入間台地でした。



▲加治丘陵山林ボランティア活動

27年後の今日は、自動車万能の時代となり、至る所に道路が作られ、圏央道や拡張された国道299号のバイパスが、加治丘陵を大きく横切り自動車があふれかえっています。狸・栗鼠などの動物は狭い地域に押し込められ、その数を大幅に減らしていると言われます。また、各家庭の生活が向上し文化的になるにつれ、大量の生活排水を必要とするのに比例した設備が追いつかずに川は汚れに汚れてきました。入間台地が山を崩して作られたように住宅敷地が河に迫り山を崩し、自然を大幅に少なくしています。

これ以上自然が無くなってきたらどうしよう、と云う思いに駆られていた昨今です。  
では、この無くなっていく自然を何とかして少しでも以前のままに残すにはどうしたらよいのだろうか、と考えていた矢先に入間市環境まちづくり会議が結成されました。それに早速参加させて貰った次第です。それで、入間市環境基本条例に基づいて

作られた入間市環境基本計画を出来るだけ多くの市民の皆さんに知っていただき、人と環境が共生し、市民が参加・協力して持続可能なまちづくりを目指す努力をしたいと思っています。

川村光雄  
(新久在住・無職)

## 今日も楽しく3R

夏の太陽が照りつける中、「入間市環境まちづくり会議」が産声をあげ、早くも9カ月の時が過ぎ、庭先ではネコヤナギが陽射しの中で、銀色にふくらんでいます。

「環境にやさしいまち、入間市を築くのはあなたの一歩から始まります。」の呼びかけに私同様、会員になられた皆さん、いかがお過ごしですか？  
電話はアナログ、ファックスなし、暑い時は団扇をこよなく愛し、寒いときは近所を走る……とてもチープな生活をしている私も、さらなるエコロジライフをめざし行動宣言をしました。車を運転しないので、どこに行くにも頼りになるのは二本の足。時間が少々かかる難点はあるにしろ、健康によし、入間の自然を身体全体で感じ、あちらこちらへ行きます。しかし不法投棄されたゴミの山に、出会うことが多くがっかりします。

「ひとり一日100gのごみ減量運動と言いますが、逆に増えているんですよ。」(環境課某氏談)の言葉を思い出し、今年の私の課題はゴミ減量にしました。

一日100gの減量、具体的にはペットボトルなら2ℓと500mlで一本ずつ、紙袋なら2枚、レジ袋20枚、ティッシュなら約1/3箱、割りばし、紙コップなど4人分が目安です。

そのため、毎日の買物にはマイバックを持参、肉、魚、野菜はバック入りを極力避け、バラ売りのものを必要な分だけ買う。割りばし、お手拭きはもらわない。シャンプー、洗剤は詰め替え用を買う。洋服はリサイクルプラザへなど、Reduceリデュース(一度使っただけのごみになるものは使わない)Reuse リユース(繰り返し使う)Recycle リサイクル(原料として再利用する)の3つのRで生活しています。

ひとり一日たった100gのゴミを減らすことで、入間市全体では14・6トンも減らせると、うかがいました。

「ひとり、ひとりの心がけで、こんなに大きな成果が生まれるなんて、すてきな！」と思いつつ、今日も楽しく3Rして行きます。

井口恵理子  
(小谷田在住・主婦)

# 総会 開催

平成14年度 環境まちづくり会議の  
総会が5月28日(火)産業文化センター  
にて開かれます。会員皆様のご参加  
をお待ちしています。

●環境まちづくり会議では、平成14年度の事業を、次のように予定しています。

○環境情報の提供や環境学習市と共催により、「環境市民講座」を開催する。

○ホームページを開設する。

○環境活動や環境基本計画の取り組み状況の点検

○環境ウォークを開催する。

○会員交流や情報交換

○入間市環境展へ参加する。

○交流会や意見交換会を開催する。

会報を発行する。

●各団体役員変更に伴う、環境まちづくり会議参加会員の変更について

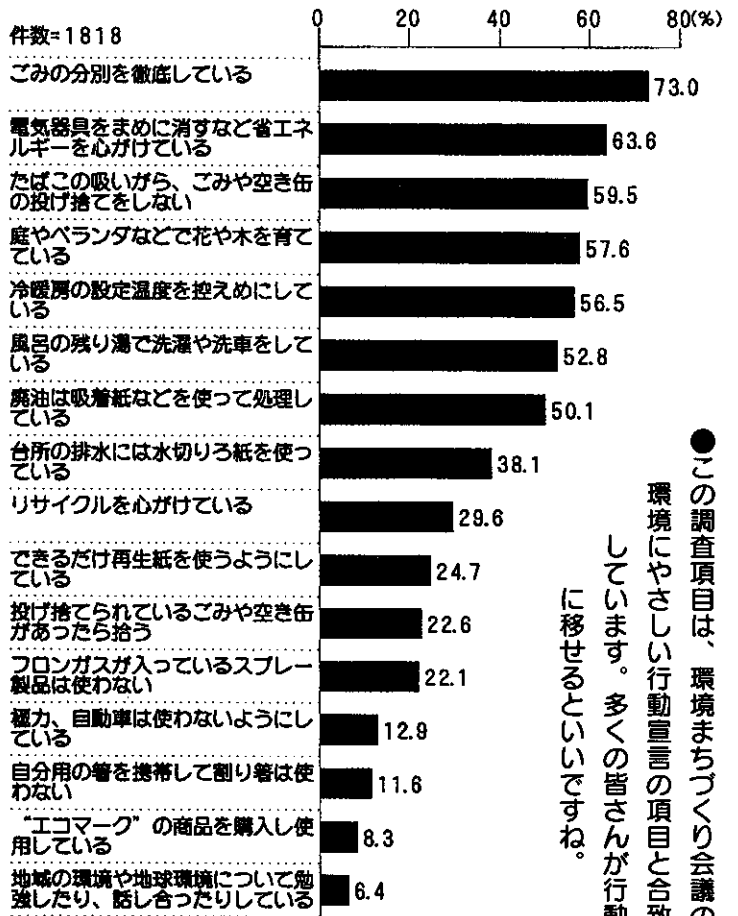
会員の方で、自治会など各団体の役員変更により、参加会員名、住所が変更になる場合には、変更のむねを事務局までご連絡下さい。

●毎年開催の環境展が「新生」となり六月九日(日)リサイクルプラザで開催。

●環境汚染を題材にした劇「虹の立つ海」が六月五日、産文センターで公演されます。

## 「環境をよくするために 日常生活の中でやっていること」は

(昨年行われた市民意識調査から)



●この調査項目は、環境まちづくり会議の環境にやさしい行動宣言の項目と合致しています。多くの皆さんが行動に移せるといいですね。

## 編 集 後 記

皆さんいかがお過ごしですか。私は花粉症が酷くマスクをしたり、目薬をさしたり、夜も眠れず悪戦苦闘の毎日です。今年も、ワールドカップの開催ですが、政界が揺れに揺れてしまい、本来ならばワールドカップ一色で景気回復と思っておりましたがどうなる事か。でも、なんとか政治改革や景気回復に拍車がかかればと思っております。

環境市民講座も会員の皆様のご協力です。4講座とも多くの方に参加して頂き、4回目の講座の後には講師を交えて楽しい意見交換会を行う事が出来ました。来年度の事業計画でも環境市民講座を開催することになっておりますので日程などは今回の会報でお知らせ致します。

会報では、「会員の声」を掲載しておりますので、皆さんの環境についてのお考えやご体験などがございましたら、どしどしお寄せ下さい。また、会報の編集内容についてのご意見、ご要望もお待ちしております。よろしくお願いたします。

(井上)

## 会員募集のお知らせ

入間市環境まちづくり会議では、会員の募集を行っています。市役所や支所、公民館に置いてある入会申込書にご記入の上、事務局(入間市役所環境課)や、その置いてある各窓口にご提出下さい。提出方法は、ご持参いただくか、郵送 FAX、Eメールでも可。

## 入間市環境まちづくり会議

事務局：入間市役所環境経済部環境課  
住所：〒358-8511 入間市豊岡1丁目16番1号  
TEL：042-964-1111(内線1241,1243)  
FAX：042-965-0232  
E-mail：kankyo@city.iruma.saitama.jp

●会員数 (平成14年2月現在)

|      |     |
|------|-----|
| 408人 | 人   |
| 内訳   |     |
| 市民   | 158 |
| 事業者  | 173 |
| 民間団体 | 50  |
| 行政関係 | 27  |

●会員の皆さんより声を募集しています。またこの会に対する、ご意見ご要望がございましたら、お寄せ下さい。



大豆由来のSOYINKを  
採用しています

12100

この広報紙は古紙配合率100%の再生紙を使用しています。